



令和3年3月号

◎稽古時間： 木曜日・・・17：00～19：00（稽古場所は針ヶ谷小学校体育館）
土曜日・・・15：00～17：00（稽古場所は駒場体育館）

< 3月の予定 >

■11日（木） 稽古再開（駒場体育館）
■13日（土） 通常稽古（駒場体育館及び本太中学校修道館）
■20日（土・祝） 稽古なし
■27日（土） 通常稽古（本太中学校修道館）

< 4月の予定 >

■3日（土） 6年生を送る会（大宮武道館剣道場） 15：00～17：00

< 5月の予定 >

■8日（土） 総会（会場未定） 15：00～

※ 3月7日に緊急事態宣言が解除され、体育館及び学校が使用できることを想定しての予定です。変更することがありますのでslackでご確認ください。





本荘先生からのお言葉

3月になりました。駒剣の稽古ができなくなり約2か月が経ちました。いまだ緊急事態宣言が解除されるのかわからず、いつから稽古再開できるのかまだはっきりしません。

そんな状況であっても時間は動き、駒剣の6年生剣士は卒業を迎えます。今年度を振り返ると、3月から学校が休校となり、6月末まで稽古ができず、そこから再開したものの、感染症対策としてマスクを着用し、密を避け人数の制限もしてきました。大会はすべて中止となり、楽しみにしていた夏合宿もなくなりました。6年生にしてみたら「なんで私たちの代でこんなことに・・・」と思っていますよね。最高学年として、あるいはキャプテンとしてあんなことやこんなこともしたかったという思いもあるはずですよ。よくわかります。

今年度は今までにない特別な年でした。こんなに長い期間稽古ができないことは初めてでした。10年前のちょうど今頃、東日本大震災が起きました。あの時もいろいろな制約はありましたが、ここまで稽古が止まることはなかったです。

卒業する6年生にお話したいのは、『現状を嘆くだけでなく、これからもできることをしっかりとやっていきましょう』ということです。

今までにない年だったので、君たちの代はたいへん印象深い代になりました。

今回の毎週土曜日のリモートでの素振り、毎回見させてもらいました。6年生が交替で号令をかけ仲間や下級生をリードしてくれました。こんなことはもちろん初めてです。

それに離れているからこそ、みんなの気持ちがいつも駒剣に向いていることもずっと感じていました。ぜひ中学生になったら、いや高校生でも大人になってからでもいいです。今年度あまりできなかった剣道を思いっきりやる時期を作ってください。

大会がなくなり試合ができなかったのは残念ですが、これまでの稽古や自主練など培ったものを発揮する機会はこれからたくさんあります。

私が剣道を始めたのが今の皆さんと同じ小学校6年生です。一年間の剣道教室でしたが、試合などやった覚えはなく、やる気も根気もない少年でした。比べるのもへんですが、「心技体」今の皆さんの方が何倍も何十倍も立派な剣士です。自信をもちこれから力を発揮してください。試合だけではありません。

剣道の修行を通じて得たものは、皆さんの人生を豊かなものにしてくれるはずですよ。行けなかった夏合宿にも実施できるようになったらぜひ参加してください。大歓迎します。

君たちの「6年生を送る会」を4月3日（土）大宮武道館で予定しています。保護者や錬成部の皆さんも一緒に、駒剣全員で君たちの晴れの門出を祝いたいと考えています。これに向けてたくさんの人が動いてくれています。今まで何度も話してきましたが「おかげさまで」という「感謝の気持ち」をこれからも大切にしてください。


さて、しばらく駒場体育館剣道場を使用しておりません。何もなければ2月から使用できリニューアルした道場で稽古をしていたはずですが。さきほど書きましたが、私が剣道を始めたのが駒場体育館での剣道教室、あの道場です。体育館ができたのは私が始める1年ほど前のはず、したがって私はずっとあの道場で稽古をしてきたわけです。ですから新しくなっているはずの剣道場は、見違えるようにピカピカになってほしい気持ち半分、少しは以前の面影が残っていてほしい気持ち半分、そんな感じです。

前の道場、床に隙間があったの覚えていますか。あの隙間にいろいろな人がいろいろなものを落としているはずなのです。紙切れや大事な書類、お金なども。私も小学生の時、何かを落としたのです。昔過ぎて何を落としたのかさえ忘れましたが。今回の工事で床下から出てきたものを展示してもらえるといいなと思っています。落とし物コーナーのようにして。

緊急事態宣言が解除され、また市の体育施設や学校開放が再開すれば稽古を始めます。最も早ければ11日(木)、新しい駒場体育館の剣道場となります。奇しくもあの日からちょうど10年、新たなスタートがきれれることを望んでいます。



師範の先生から卒業生へ お祝いのお言葉をいただきました



卒業生、卒業生の保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。
加入期間の長さは、それぞれですが、深く駒剣に携わり、ご協力
いただき、駒剣士に愛情を注いでくださりありがとうございました。

巣立つ君たちへ

尾島 寿子先生

駒場剣友会を巣立つ時がやって来ます。小学6年生の君たちがこの時を迎えるに当たり、思い出す事が沢山あると思います。まずは剣道を始めてみた時の驚き・不思議・感動・不安などなど…、大きな発声をして素振りや打突をして気持ちがスカッとしたこと、友達出来るかな？そう思っていたけれど、行事などで急に仲良しになったり、共通の趣味の仲間が出来たり、試合で勝って嬉しく・試合で負けて悔しく、存在の大きかった先輩や可愛い後輩がいて、声をかけてくれる保護者の方や錬成部の方が沢山居ましたね。師弟（師匠と弟子）関係以外にも沢山の宝があるのが駒場剣友会だと思います。関わる全員の方が協力・成長できる道場です。

駒場剣友会の指導のお声がけをいただき24年が経ちました。教え子は総勢311人になりました。当時小学5年生だった関口先輩が、駒場剣友会に帰って来てくれてOBとして後輩の面倒を見る姿は最高に嬉しいものです。巣立つ君たちの24年後はどう成長しているのでしょうか？私はおばあちゃんになっています。君たちの誰かが関口先輩のようにこの道場で後輩の面倒をみる姿もあるかもしれませんね。

木曜日の伝統になっていた、男子がお迎え、女子がお見送り、袴や剣道着をたたんでくれて、竹刀と防具袋を運んでくれることが今年は出来ませんでした。剣道の「先を取る」のように人の動きや気持ちを察して動く、剣道の「礼」のように感謝の心で動く。これらはこれからの人生・生活にとって大切なことです。その精神を忘れずにいてください。

中学生生活は剣道の初心者になった気持ちでスタートしてください。何をするのも「有って当たり前」でなく「無いこともある」ものです。無くて愚痴るのでなく、作っていく気持ちで歩んでください。

昨年同様、コロナ禍の中で苦労や我慢の年だったけれど、自主練に励んだりマスクを着けて稽古したり、通常の生活では得ることの出来ない工夫や経験がありました。決して忘れることのない思い出となります。6年生全員の成長を感じています。6年生のみなさん、卒業の時（節目）までよく頑張ってきて立派です。そして保護者の方々、今まで子供たちを支えて見守りくださり本当に有難く思います。卒業生の活躍とご健康をお祈り申し上げます。

卒業おめでとう

山田 節男先生

六年生のみなさん卒業おめでとうございます。毎年、この季節になると同じようなことを思いながらこの文章を書き始めました。しかし、今年の卒業生であるみなさんは今までの卒業生と違う卒業生です。

昨年この号の原稿で二十四節気（にじゅうしせっき）の話をしました。

二十四節気とは、昔の太陰太陽暦（たいいんたいようれき）という暦を使っていた時代の頃の季節を表すために一年を二十四に分けて季節を表したもので、みなさんも立春とか春分という言葉の聞いたり使ったりしたことがあると思います。昨年は雨水（うすい）というこれを書いている

二月の終わりころの話を書きました。

この駒剣だよりを読むころは、啓蟄（けいちつ）のころだと思います。

啓蟄（けいちつ）はむずかしいことばですが、蟄（地中にこもること）をやめて土中に冬眠していたカエルやへび、そのほかいろいろな虫が地上にぞくぞくと登場してくるころです。今年は3月5日から春分の日までの日までということになります。



この二十四節気はさらに3つに分けられて、七十二候（しちじゅうにこう）というのがあります。どちらももともと昔の中国で使われていたものが日本に入って一部はそのまま、一部は日本で考えたものに変わっていったようです。私は、いくつかの俳句（はいく）の歳時記（さいじき）などを見て同じ時期の七十二候で違うものがあるのがどうしてなのかと調べていたら、どうもそういうことのようにです。そして、それがわかったのが、国立天文台（こくりつてんもんだい）のホームページの中の暦計算室（こよみけいさんしつ）というところでした。知ってみればあたりまえですが、国立天文台という科学として宇宙のなぞにのぞむ日本の最高機関（さいこうきかん）でそんなことを詳しく記してあるとは想像（そうぞう）しなかったのです。でも暦は天文学と関係していますものね。この啓蟄の期間の七十二候の第三候（三つに分けた最後の期間）は、最初のころは、鷹化為鳩（たかけしてはととなる）で新しいものは（と言っても江戸時代のある時期にできたものですが）、菜虫化蝶（なむしちょうとなる）となっています。中国から伝わってきた時はありえないようなたとえがたくさん使われていたようです。鷹（たか）が鳩（はと）になってしまうなどというのはないことでしょうか、暖かくなって鷹がぼんやりとなって鳩のようになるというたとえのようです。人も暖かくなるとぼうっと気持ちがやさしくなってくるようなことなのではないでしょうか。今でも俳句の季語（きご）になっています。

昨年、卒業生を送ることばを駒剣だよりに書いてまもなくコロナが本格的にはやりだしました。この一年間ほとんどない一年でした。今の六年生であるみなさんは、小学生最後の学年としての行事がほとんどできませんでした。対外試合も合宿もクリスマス会も他にもいろいろ、できなかったものがあります。多くの日で道場や体育館が使えずにみんなで集まる稽古ができませんでした。後援部、錬成部のみなさんがいろいろ工夫してなんとかできた行事もありましたが、本来のかたちではできないことがほとんどでした。みなさんと合宿に行きたかったなあ。

啓蟄について書いたように春という季節は、冬こもっていたいろいろなものが動き出し、気持ちのよいあたたかさが続き新しいことを始めるころです。新しいことをしようと思う気持ちがでてくる季節だと思います。皆さんは中学に入り、新しい学校生活に入るわけですが、まだしばらくは本来の活動のできない

生活が続くと思います。なかなか新しいことに取り組む気持ちが出ないかもしれません。人は人と実際に会い、ふれあい、言葉を交わし学び遊び活動することが楽しいと思います。必要だと思います。しかし、なかなか思うようにはできない日が続くと思います。早く思い切り声を出しからだをぶつけ合うようなことを、肩を寄せ合い相談することができる日がくることを祈ってやみません。それでもいずれは必ずできるようになるはずです。

これからの生活に楽しいことは必ずたくさんあります。もちろん困難（こんなん）なこともたくさんあると思いますが、とにかく元気でいてください。制約のある中での生活が続きますが、その中でもいろいろなことに興味（きょうみ）を持って取り組んでいってください。わからなければ調べる、調べるときは正しい情報のもので調べる。いろいろなことに興味を持つと元気も出てきます。わたしは、みなさんが元気に活動しているのを見ると元気がでます。限られた活動の中でもできれば剣道のあるいは他のことにも挑戦してください。悩むことがあればおとうさんおかあさんおうちのひとに相談してください。わたしたちに相談してくれればうれしいです。元気な時も元気でない時も顔をだしてください。これからもみなさんは駒剣の仲間です。

卒業おめでとう。必ずすばらしい日がきます。その日までいっしょにがんばりましょう。

『場に習い、師に習い、友に習う』

木村 裕之先生

六年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症によって、未だに世界中が脅威にさらされています。その為、昨年は夏合宿も中止となり、十分に稽古出来ない日々が続いたと思います。そのような状況下でも、自主練を頑張る君たちの姿はとても立派です。



そして気がつくと、少しずつ春を感じる季節になっていました。旅立ちの時期ですね。これから君たちは、滑走路に入って、高く遠く飛び続けてゆくことと期待しています。

以前、駒剣の稽古の時に何度かお話ししたことがあります。剣道をはじめとした武道では、『場に習い、師に習い、友に習う』と良く言われます。君たちは駒剣で、道場の緊張感のある雰囲気から、道場で稽古後に面をとった時の開放感から、また、道場でのイベントの様々な場面から多くのことを学んできました。そして、先生から剣道や生活面までご指導頂き、仲間からは多くの刺激を受けて剣道や勉強や家でのお手伝いなどを頑張れたのではないのでしょうか。

私は、いつも六年生には習うことが一杯ありました。そして感心すること、感動することが一杯でした。最近稽古に行けずに、君たちから習う機会が少なく残念ですが、君たちの成長はとても素晴らしいです。そして、六年生の行動を、下の学年の子達は見ています。六年生が防具や竹刀をきちんと片付けていると、下級生が真似をする姿はいつ見ても微笑ましいものです。

君たちはこれから中学校に進み、もう一段も二段も大きく成長する時です。是非、変化を楽しみながら、中学という新しい場から、新しい先生から、新しい仲間から、多くのことを吸収して欲しいと思います。駒剣で頑張ってきたことは自信になります。思い切って前進して下さい。

最後ですが、コロナ禍が収束しましたら、駒剣で後輩の稽古相手をお願い致します。

卒業おめでとう！

太郎の百錬自得

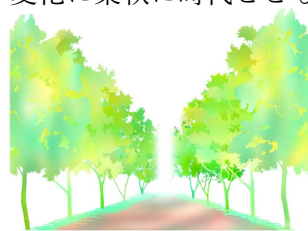


第84回

残念ながら緊急事態宣言が延長されましたね。
6年生を送る会が無事実施できることを願っていますし、駒剣卒業前に1回でも多く6年生と稽古したいと思っています。

Slackの自主練投稿を読んだり、zoom素振りで見んを見たりできて、便利だなあとと思います。オンラインミーティングのアプリだったり、コロナ時代だからこそのサービスも色々生まれていますし、これまで当たり前だと思っていたことがもはや当たり前ではなくなっています。変化に対応できるものが生き残ると言います。剣道も例外ではないですので、変化に柔軟に時代とともに発展していきたいものだと私は思います。

さて、6年生諸君。
剣道を学んできて、自分にとって何がよかったですか？
何かを身につけられましたか？



剣道に限らず、どこかに所属して、何かを学べば、習熟していく過程で、仲間ができ、世の中の見え方が変わっていきます。それが成長というものだと思います。特に剣道を通じて、私がみなさんに少しでも会得してもらいたいもの、それは、相手に正々堂々向かっていける気持ちです。相手によって言うことや態度を変えたりしない真っ直ぐな精神です。そして相手に寄り添う気持ちです。

剣道でいう四戒、を乗り越えましょう。四戒とは、「驚き」「恐れ」「疑い」「惑い」の気持ちのことです。いつまで経っても乗り越えにくいものですが、コツがあります。それはまず一歩前に入る、ということです。一歩前に入ると世の中が広がります。四戒に囚われて、前に入られないといつまでも世の中は広がりません。むしろ良くない方向にいくでしょう。

「驚き」「恐れ」「疑い」「惑い」、これらの気持ちが自分の中に出てきたら、ひとまず一歩前に入るんです。挨拶しようかな、やめておこうかな、と思ったら、挨拶する、っていうことですね。ぜひこのことを忘れずにこれから歩んでいって欲しいと思います。

最近の稽古について。

東京都の一部区では、施設貸し出しを中止していない区もあり、2月は私4回稽古できました。さいたま市は厳しいですね、施設を使えなくしてしまってますので。週に2回ほどの時もあれば、10日以上空くこともあり、一回の稽古のありがたみが身に染みます。先生方とは、稽古がなかなかできないからこそ、間合いに入ってちょこまかしないで、一足一刀から思い切って打つ、打たれたっていいんだよ、と改めて話しました。この精神で稽古できるように心に留めておきたいと思いません。

最後に、6年生のみなさんの卒業、おめでとうございます。これからの希望に乾杯！です。

新ジャイアンのはなうた♪



よっ！ みんな、元気か？

スラックの自主練チャンネル、みんなすごいな。

張り切りすぎて、怪我なんかしないでくれよな。3月7日に緊急事態宣言が解除になって、また、みんなと稽古できるといいな。

ところでみんなは花粉平気かな？ ジャイアンは、福島の中での山の中で育ったから、花粉は平気と自分に言い聞かせてきたけど、結局、花粉症がひどくて、7～8年前から、お薬を飲んでます。花粉が飛び始める前の時期からお薬を飲み始めると、いいみたい。何事も、先（せん）をとることが大切ってことだな。カゼも引きはじめが肝心っていうし、虫歯だって早い方が痛くならなくていいよね。え？ 剣道に関係ないじゃないか？ そうだよ。「はなうた」だから剣道に関係なくたっていいんだ。

カゼっていえば、ジャイアンが学生のころは、剣道の先生に、カゼなんで休ませて下さいっていうと、「稽古をすればなおる」といって休ませてもらえなかったなあ。でも、不思議と稽古すると、カゼがなおっちゃったことがあったぞ。大きな声を出して、汗をかくのが良かったのかな？ これ、けっこう「剣道あるある」なので、チャンスがあれば、師範の先生とか錬成部の先生に聞いてみると面白いかもね。

そういえば、ある時、先生に「ねんざしたので稽古休ませて下さい。」って言ったら、先生、「稽古をすればなおる」だって。なおるわけじゃないじゃないか(*´ω´)

ほんと、気をつけないと、昔の常識が、いまの非常識になっちゃうからね。例えば、昔は、稽古中に面をとって給水するとか、そんなこと絶対に許されなかったけど、今は、先生の方から、「飲みたくなくても飲みなさい。」、だもんね。それと、うさぎとびってどんなスポーツでもやっていたと思うけど、苦しいのに効果がないだけじゃなくて、ひざのケガにつながってしまうので、今はやらないっていう話は有名だよな。

でも、これらのことと、稽古で手を抜くという話とはちょっと違うな。掛かり稽古とか、はや素振りとか、辛いのを我慢して頑張ると、素早いうちができたり、体力がついたりするよな。限界を作らないようにして、つらいことに挑戦してみることも大切みたいだな。かといって、やりすぎて、ケガしたり、体調が悪くなったりしたらダメだし。

いったいどっちなんだ！

結局、ちょうどいいところを自分でみきわめないとならないってことだな。

う～む。難しい。

結局、適当がいいってことだな。え？ いいかげんなヤツだって？

昔から言うじゃないか！ 「いいかげん」は「良い加減」って！

今回は、ちょっと難しかったかな？

じゃあ、またな！



威風胴々 No.8

清水 聡

こんにちは。

駒剣士の多くの子供たちが自主練で頑張っていますね。早く通常の稽古が再開できて、皆さんに会いたいです。前回までは、胴台についてのお話をしてきましたが、今回は胴胸のお話をしたいと思います。

No.1でも書きましたが、胴は、胴台と胴胸の2つのパーツを組み合わせることでできています。胴台はお腹を守る部分で、胴胸は胸を守る部分です。

右図のように脇の下に延びる部分は「子胸」とか「足」と呼ばれる部分で脇の下を守る部分です。子供用の小さな胴には子胸がない形もあります。胴胸の形を見るとなんだか富士山のシルエットにも似てますね。私は胴胸を作ったことはまだありません。以前、胴胸の中身はどうなっているのだろうと思って中を覗いた時の写真を載せています。いろいろな素材が何重にも重なっていました。硬さもあるので、かなり丈夫に作られています。胴台は竹や樹脂やファイバーといった素材で作られますが、胴胸は胴台の素材ほどの大きな違いはありません。また、胴胸の表側のデザインにはいろいろな種類があります。その数は胴台の仕上げ方法の数以上に多彩です。



胴胸

さて、剣道の有効打突部位は皆さんがご存じのように、面、小手、胴、突きですね。突きは喉元の位置で、防具の面には喉元を守る突き垂れがあります。ここが突く部位になります。実は胴胸の部分も胸突きと言って30~40年ほど昔は有効打突部位だったことがあります。しかも上段の構えにだけ有効だったのです。私はその頃は剣道をしていない時期でしたので記憶がありません。勝手な想像ですが、こんな経緯があったと思われます。



胴胸の中身

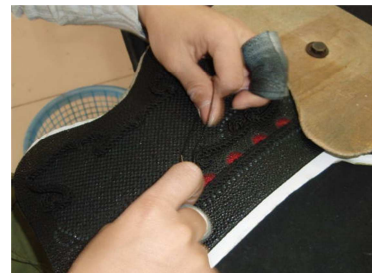
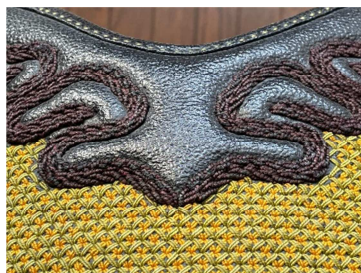


(エヌエイチコー；たぶんこうだったんじゃないか劇場のノリで聞き流してください)

昭和40年~50年頃は強い上段の選手がとても多くいた上段党の全盛期の時代でした。

戸田忠雄先生、川添哲夫先生、千葉仁先生等の有名な上段選手が続々と何度も全日本先選手権で優勝しました。敵対する中段党はそれは面白くないと、「上段は強すぎるからハンディをつけちゃえ」運動を勃発。昭和54年に胸突きも上段に対しては有効とするルールを定めてしまいました。ところがそれでも昭和58年に上段党の東一良先生が全日本先選手権で優勝します。そこで中段党は「もっと胸突きを甘くしろ」運動を拡大。さすがの上段党もこれにはかなわず、一気に上段党は劣勢化の一途を辿ります。時は過ぎ、偏った運動も穏やかになったころ、巷では「最近、上段党で活躍している選手、誰かいた？上段を教えられる人いなくなっちゃうじゃん？これまずくない？」となり、平成7年に胸突きは廃止されることに。。。

で、話を戻しますが、胸突きは胴胸のデザインにも大きな影響を与えました。胴胸のデザインを大雑把にいうと、図①のAの部分を「飾り」と言います。Bの部分を「刺し」と言います。この2つから構成されます。何のためにこの飾りや刺しがあるかというと、竹刀で突かれた時に剣先が滑って喉などに刺さるのを防ぐためです。特に飾りの部分は、盛り上がっていて、ストッパーの役目をしています。この飾りは幅が7~8mmの太い紐の様なものを縫い付けている様に見えますが、0.5mm程度の細い飾り用糸を何度も刺して縫われています。



(※)

単にストッパーの役目だけであれば、いろんな模様にする必要などないかもしれませんが。でも胴胸の飾りや刺しには数えきれないほどの模様の種類があります。このあたりが胴胸を作る職人さんの腕の見せ所だったのでしょね。まさに、工芸品でしょ？「飾り」の部分は、大雑把に次の3つに大別できます。左から順に②飾りが上部にある。③飾りが下部にある。④飾りがない というタイプです。



上部にある

下部にある

飾りがない

更に、飾りの代表的なデザインは、①「松飾り」、②「本雲S字飾り」③「鬼雲飾り」、⑤「兜飾り」、の4つに大別されます。飾りの種類毎にそれぞれ意味があるのですが、②本雲S字飾りだけは知らないのここでは省きます。

「松飾り」は、植物の松のことです。松の葉は一年中緑色です。それで昔の人は、松には神が宿っていると考え、不老長寿、繁栄の象徴と尊いたのです。お正月に、松飾りを玄関などに飾りますね。これは神様を向かい入れる意味なのです。そういう意味合いから松飾り模様が生まれました。



「鬼雲飾り」は、文字通り鬼と雲を意味しています。鬼瓦(おにがわら)って知っていますか？左の写真の様な、神社やお寺の屋根に乗っているものです。私の家の屋根にもありますって人いるかしら？

この鬼瓦は厄除け(やくよけ) = 災難から守るという意味があります。屋根にあるので豪雨や大雪などから守るという願

いが込められています。恐ろしい物を置くことで恐ろしいことから守るという考えなのです。次に雲ですが、雲は古代から太陽の光をさえぎり、雨や雪を降らせて天候を左右する力を持つと考えられていました。雲には神や鬼が宿ると考えられていたのですね。こうした背景から鬼雲模様が生まれ、古い寺院では襖(ふすま)や欄間(らんま)に描かれたりしています。その文化を受け継いで胴胸にも使用されるようになったと思います。

「兜飾り」は、戦国時代の甲冑の兜のことです。兜の正面にカブトムシの角みみたいなV字型のものが付いています。これは「立物(たてもの)」と言うもので、兜の象徴的なイメージを持っています。少し話がそれますが、5月人形で兜の飾りを見たことがありますか？男の子がいるお家では飾っているよというご家庭もあるかもしれません。男の子が病気や事故などの災厄を逃れ、力強く成長してくれるようにという願いやお守りとして飾られているのです。胴胸の兜飾りも同じでお守りの意味なのです。



昔の職人は、胴胸を作る際に単に滑り止めの効果だけでなく、大事に扱うものに縁起の良い意味を込めた模様を飾りとしてあしらったのです。

今回は、「刺し」についてのお話をしたいと思います。

※写真は京都東山堂 Web サイトより

卒業生 & 保護者の方から駒剣のみなさんへ

卒業に際し、6年生と保護者の皆さまに溢れる想いを書いていただきました。
共に過ごした時間を思い返しなが、じっくりご覧ください。

【卒業生より】

宮島さん



私は、2年生のときに駒剣に入会しました。剣道教室では、竹刀の握り方、構え、すり足などの基本の動作、剣道におけるの礼儀などを主に教えていただきました。私はそのとき、左足のかかとを上げてしっかりと構えをずっと保たなければならなくて、正直「つらいな、早くカッコいい防具をつけてみたい」と思っていました。でも、初めて防具をつけたときは、とてもきつくて重たくて、思った通りに動くことができませんでした。そこで私は先輩方のすごさを知り、稽古を一生懸命やればきっと先輩方のようになれると希望をもちました。そして先輩方と一緒に稽古をするようになり、基本の大切さを学びました。また、先生方に「打ち方がまっすぐでいい」とほめていただいたときは、剣道教室や初心者組で頑張っていた良かったと思ひ、剣道が好きになりました。5年間の試合で一番心に残っているのは、3年生のときに出場させていただいた鳩ヶ谷秋季剣道大会です。憧れだった権田先輩と団体戦で一緒に出られた最初で最後の試合でした。3位という成績でメダルをいただいたこともうれしかったのですが、何よりも権田先輩の礼儀正しく真っ直ぐでキレのある剣道に感動しました。私は権田先輩のように強くはなれませんでした、権田先輩は今でも尊敬する憧れの剣士です。6年生では、キャプテンを務めさせていただきました。コロナの影響で稽古期間が短くなったり、楽しみにしていた合宿や寒稽古がなくなったりして悔しい思いもありましたが、決められた期間、日々の稽古において最善の努力ができたと思います。中学生になっても駒剣で教わった正しい剣道を続けていきたいです。師範の先生方、錬成部の方々、そして一緒に稽古をしてくれた皆さん、本当にありがとうございました。時々、駒剣に稽古に行かせていただくことがあると思うので、そのときはどうぞよろしくお願い致します。

上岡くん



ぼくは2年生のころから5年間駒剣でお世話になりました。ぼくは兄のえいきょうで剣道を始めました。やっぱりけい古は辛いし、つかれるし、痛いしでとても大変だけど、それ以上に楽しいです。先生方の指導や保護者の方々の優しさ、駒剣士のみんなといっしょにけい古ができるうれしさで5年間という長い年月剣道を続けることができました。新型コロナウイルスのえいきょうで6年生の間試合が一回もなく、寒げいこもなく、合宿もなく、楽しみだったことがほぼ無くなってしまいました。それはやっぱり悲しいし悔しいです。だからと言って6年生になってからの剣道の思い出はそれだけじゃありません。一番はやはり一級に受かったことです。休みの間も素振りチャレンジをがんばって努力して受かったとわかったときは本当にうれしかったです。家への帰り道、合格した喜びときん張から解放されたのと涙が止まりませんでした。ぼくは中学生になっても剣道を続けるつもりです。修道館に行くと思うのでその時はよろしくお願い致します。先生方や保護者の方々、駒剣士のみんな5年間、本っっっっ当にありがとうございました。

秋本くん



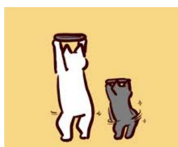
僕は3年生の時に剣道を始めました。「何かスポーツをやりたい」と思い、パンフレットを見て目に留まったのが「剣道」でした。母に伝えたら、「駒場剣友会」を見つけてくれました。「楽しいことばかりなのだろう」と思っていました。しかし、現実はそう甘くありませんでした。体験に参加した時、防具の紐が結べなくて「防具をつける前に辞める」と決めていました。その後入会しても防具を購入しませんでした。同期のみんなが購入していて「俺も欲しい」となり、防具を購入しました。「防具の紐が結べない」のに「防具をつけて素振りをするのが辛くて嫌」「打たれるのが痛くて辞めたい」と悩みはじめた時、バンバンと切り返している先輩や、かかり稽古で積極的に打ち込んでいく先輩を見て、「自分もあんな風にやりたい!」と気が変わりました。ここから剣道が好きになりました。次にぶつかった壁は「摺り足」。「こんなことやっても意味ないだろ」という気持ちでやりたくなくなりました。が、「つまらなくても摺り足ができなきゃ何もできない」と教わり、「頑張ろう!」という気持ちが自然に沸き起こり、「摺り足」の壁を乗り越えられました。その次にぶつかった壁は「竜田川」でした。寒稽古の最後にやる竜田川が嫌で稽古に行きたくなかったのですが、稽古に行ってみると案外楽しい。「辛くても楽しい」という謎の感覚にハマり、「竜田川」の壁も乗り越えられました。夏合宿の試合で勝って嬉しかったり、アップの場所取り役で駒剣に貢献でき嬉しかったりして、どんどん剣道にのめりこんでいきました。また、オンライン素振りや、自主練チャレンジで、楽しみながら素振りをすることができて、【剣道の新たな楽しさ、好きなことに打ち込める楽しさ】を教わりました。今年度はコロナが流行り、思うように稽古ができない中で、自主練をやり続けられたのは、自主練チャレンジを企画してくださった先生方のおかげだと思います。また、今に至るまで僕が剣道を続けられたのは、一つ一つ丁寧に教えてくださった先生方やサポートしてくださった後援部の方々、一緒に稽古してくれたみんなのおかげだと思います。4年間本当にありがとうございました。中学生になっても剣道を続けるので、これからもよろしくお願いします。

加藤くん



僕は中学で剣道を始めた兄の試合や出稽古についていくうちに自分もやってみたいと思うようになり、3年生の時に駒剣に入りました。剣道教室、初心者指導を終えて、赤たすきをつけて先輩たちに合流した日は嬉しかったけれど、毎回稽古についていくのが精一杯でした。先輩たちの迫力と礼式でのきりっとした姿をみて、僕もいつかこんな風になれるのかな、と思ったことを覚えています。錬成会で他の剣友会の人たちと沢山の試合をしたこと、OB会での先輩方との稽古、初めての大会で緊張していた時に先生方や保護者の方々、駒剣士のみんなが励ましてくれたおかげで1本取れたこと、クリスマス会で先生方が仮装しているのに強いこと、埼玉大寒稽古はきつかったけれど色々な先生方に稽古して頂けたことや稽古終わりのココアが今まで飲んだ中で一番美味しかったこと、六送会で先輩たちを送り出すのが悲しかったこと、後輩剣士が出来たこと、大会で結果が残せず悔しい思いをしたこと……。駒剣での思い出は沢山ありすぎて書ききれません。最後の一年はコロナの影響で稽古や行事、大会の制限があり辛かったけれど、稽古休止期間も先生方が企画して下さった自主練やオンライン素振りで皆と繋がっていられました。稽古が出来るとは当たり前なことではなく、とても恵まれているということを感じました。ご指導下さった先生方、一緒に稽古をしてくれた先輩方や仲間たち、いつも見守って下さった保護者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。中学校に行くと小学校とは違うことが多いと聞きました。不安もあるけれど、駒剣で学んだ様々なことを思い出しながら頑張っていきたいと思っています。4年間お世話になり有難うございました。

俵くん



2年生の頃から始めた剣道ですが、稽古をする前から楽しみだと思ったことはありませんでした。それでも剣道に行ける日は必ず行っていました。稽古をしていると段々と楽しくなるからです。

初めから剣道を楽しめるタイプではなかったため、木曜日と土曜日はいつも気持ちが悪くありませんでした。ですが剣道を辞めようとは思いませんでした。それは、剣道をやっていることは僕にとって、今までがんばってきた証であり、周りの人とは少し違うことの楽しさとワクワク感を教えてくれた重要なものだから手放したいとは思いませんでした。

だから中学校に行っても続けていきたいと思います。

駒剣の後輩たち、仲間として共に稽古をしてくれてありがとう！

先生方は僕に剣道や礼儀、そして感謝の心を忘れないことを教えてくれてありがとうございます。

これからもたくさんの人に学ばせていただくのだと思いますが、今まで駒剣で学んだ礼儀、感謝の心を忘れずに、自分なりにがんばっていききたいと思います。

廣江さん



私は、4年生の時に駒剣に入会して、3年間お世話になりました。入ったばかりの時は、打たれると痛くてあまり行きたくないと思った時もあったけれど、先生や先輩方が「上手だね。」や「すごいね。」と優しく言ってくれてとても嬉しくて、楽しかったです。そして、高学年になって先輩方のように、下級生のお手本となるような剣道を目指しました。

一番思い出に残っているのは、夏合宿です。3日目の試合では、初めてたくさん勝てたので、とても自信になりました。今年の夏は行けなくて残念でした。駒剣では、礼儀やあいさつの大切さなど、たくさんを学べました。今まで、本当にありがとうございました。

百木くん



僕は4年生から剣道を始め、駒剣に3年間お世話になりました。体験が楽しく、新しくできることが増えるのが嬉しくて始めました。しかし、稽古を続けていくと、楽しいことばかりではなく、苦しくて辛くて、嫌だなと思うようになりました。おまけに頑張っても上手くなっている気配も感じず、試合にも勝てず、やっている意味もわからず、もう辞めたいなと思いました。

それでも僕が辞めずに、卒業までこられたのは、一度始めたことはそう簡単には辞めてはいけないなと思ったからです。試合に勝てなくて、もちろん悔しいですが、それでも今まで稽古してきたその時間が、辞めてしまっただけで意味がなく無駄になってしまうと思ったからです。実際、続けることで剣道の技術や体力の他に、嫌なことや苦しいことに立ち向かう力が少しはついたのではないかと思います。これからも、駒剣で教わった技術や精神力を忘れず、チャレンジしていきたいです。

先生方をはじめ、駒剣のみなさま、3年間ありがとうございました。

森岡くん



駒剣では挨拶の大切さ、礼儀などを学びました。痛くても練習が続くのが辛かったです。

そんな中でも頑張っている仲間の姿に勇気づけられました。

続けていくことの大切さ、そこで続けられない自分の弱さも知りました。

駒剣で学んだ挨拶・礼儀の大切さを普段の生活の中で活かしていきます。これからは途中であきらめてしまうのではなく最後まで自分で決めたことはやり通せるように頑張りたいと思います。

稽古をつけて下さった師範の先生方、一緒に稽古してくれた駒剣の仲間たち、3年間、本当にありがとうございました。

【卒業生保護者より】

宮島さん(母)



小さい頃から何でも自分で選択させてきたので、生活のなかで駒剣を優先していたことは全部自分で決めていました。週2日の稽古が大好きだった娘は、父母の送迎ができなくても一人バスに乗って稽古へ。金管コンサートもコンクールも稽古があるから出場しない。弟のピアノ発表会でも頑張っってねーと言い残し稽古へ。…という具合に、いつも稽古を選択していました。これほど大好きなものに出会えたこと自体が貴重ですが、何より温かい先生方や友だちに囲まれて過ごせた時間こそが、有り難いものだったと実感しています。ここ一年は従来通りとはいかない日常になりましたが、健康な身体や恵まれた環境で剣道ができるのは当たり前なことではないと、親子で気付かされました。また、キャプテンとして、自分の責任を考え、実行しようと努力した年にもなりました。学校では大人しい娘の新たな一面を知ることができました。気が付けば、2年生のときに言っていた「小さいね、かわいいね」をいつの間にか卒業し、大きくなっていました。成長を支えてくれたのは師範の先生方をはじめとする駒剣の皆さまです。たくさんの恩をいただきました。娘には、この恩を今後の人生で出会うたくさんの人たちに自ら送ってほしいと思います。母の私は、勝った試合も勝ったことが認識できないほど剣道をわからないまま5年が過ぎてしまいましたが、父弟と一緒に楽しそうに剣道トークをする娘の様子を眺めながら、周りの方々への感謝の気持ちをかみしめています。これまで娘を支えてくださった駒剣の皆さまへ、心からありがとうございました。

上岡さん(母)



兄が駒剣に入ると同時に付き添いとして同じ様に道場に通り、いつの間にか楽しそうに竹刀を振り回し、直起が俺も早く駒剣に入りたい！と言い出した時。私は正直このまま剣道を始めさせて良いものかとても迷っていました。兄弟で同じ競技をすることのデメリットを、身をもって知っていたからです。サッカーや野球、空手を勧めたりもしましたが「俺は剣道をやりたいんだ」その一点張りでした。二年生で駒剣に入ってから母の密かな心配をヨソに彼は常にマイペースに剣道を楽しんでいました。あまり人の事を気にせず、俺流を貫いていた彼ですが5年生の夏合宿を機に剣道に対しての意識が変わったようで体力の限界までお稽古をするようになりました。そして六年生として中学校に繋がる剣道をしていってくれたらと思っていた矢先の新型コロナウイルスによるお稽古自粛。刹那を生きる子供ですから剣道への気持ちをどのように保たせたら良いのか途方に迷っていましたが、先生方が自主練チャレンジを立ち上げてくださったおかげで無理なく楽しく筋力も気持ちも保つことが出来ました。こうして改めて息子が駒剣に入ってから事を思い出してみるにつけ、兄弟で同じ競技をすること、彼の体躯が少し小さいこと、剣道に向かう姿勢など、細かい事を気にしているのは私だけだったんだなと気が付きました。彼はいつも伸び伸びと剣道をその時の気分のまま楽しんでいたように思います。そしてそれは彼を彼のままで受け止めて、見守って、優しく時には厳しくお稽古をつけてくださった先生方がいてくださったからだと思います。六年前の私の心配は杞憂に終わりました。彼は剣道を始めたときの気持ちのまま駒剣を卒業します。師範の先生方、錬成部の先生方、諸先輩方、保護者のみなさま、そして駒剣士の皆。直起を育ててくださって本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひします。

秋本さん(母)



不安な時には心の支えになるような、「俺にはこれがある！」と胸を張れるような「芸」を習わせたいな。出来れば、長く続けられるといいな。ウルトラマンの変身グッズもサイズアウトしてきたし、防具を付ける剣道をやってみたら？……という経緯で、駒剣に入会しました。防具の紐を結ぶのが苦手で早々に辞める宣言をした朔也でしたが、駒剣のみなさんと過ごす時間が想像以上に楽しく、やる気になりました。4年の夏合宿を経験した頃から、家で着装する際も自分で紐を結ぶようになり、面つけが速いと褒められた時は、誇らしげに報告してくれました。駒剣に自分の居場所を見つけ安心し、自信を持ち始めた頃だったと思います。5年生になり、選手に選んで頂きながらも負けが続きました。お稽古では勝ったし試合でも勝つ気満々!!だけど、初戦で終わってしまおう。「勝たなきゃ!!」とプレッシャーをかけたり、「集中!集中!」と唱えさせたり、「相手が強すぎた!?!」と開き直ってみたり。気持ち的な弱さが課題でした。ようやく、練成会の大將戦に勝ち、「連敗ループを抜ける兆しが見えた〜(^_^)」と喜んだ一月後には、休校が始まりました。そして、6年では、#自主練、オンライン稽古やこまだよで、先生方の貴重なお話を拝読でき、会えないのは寂しいけれど、毎日みなさんと繋がっていて、親子共にたいへん心強かったです。自発的に素振りをするようになり、ちょっとだけ胸板が厚くなり、なで肩の周りに何となく筋肉がつかしました(今は消滅気味ですが…)。また、母譲りの忘れ癖がある息子は、行く先々で痕跡(忘れ物)を残してくるので、その度に、ママさんたちが「次の稽古まで預かっておくね。」や「修道館に届けるね。」と、何度も何度も助けてくださいました。「褒めスイッチ」がちょいちょい行方不明になる私ですが、先生方やみなさんの様子を見て、「なるほど、このタイミングで褒めるのね!」とこっそり学んでいました。心身ともに多くを学び吸収し成長できた駒剣での日々は、居心地の良い幸せな時間でした。朔也に「駒剣」という帰る場所ができ、何より嬉しいです。師範の先生方はじめ錬成部の方々、保護者の皆さま、駒剣士の皆さん、本当にありがとうございました。朔也には、皆さまに頂いた佳きご縁を大切に、精進して行ってほしいと思います。これからも末永くご指導をお願い申し上げます。

加藤さん(母)



駒場体育館でキッズテニスをしていた息子が駒剣の剣道教室のポスターを見つけ、やってみたい!と目を輝かせたのは小2の時でした。中学で剣道部に入った兄の出稽古や試合のサポートが週末にあった事、他の習い事との日程調整も困難だった事から体験を見送りました。それから1年が経ち、またポスターを目ざとく見つけた息子が1年前と同じように、やってみたい!と目を輝かせたのを見て、このやる気は本物だと感じ、申し込みをしました。剣道教室では、礼式での木村先生のお話で心が洗われたり、ほぼマンツーマンで面倒をみてくれる6年生についていこうと必死になる姿を見て感動したり、体育の授業でしか触れたことのなかった竹刀を私も一緒に振ってみたり、毎回色々な刺激を頂きました。入会してからも、初めての昇級審査会でのたどたどしい動きに苦笑いしたり、月例試合や大会は私の方が緊張してしまったり、様々な行事で先生方や先輩方、後援部の先輩の皆様にお会いし貴重なお話を伺ったり、沢山の出会いと気付きを頂きました。人と人との関わりが薄れているといわれる昨今、家族以外の方々とこんなにも繋がれる場所があるというのは本当に貴重な事だと思います。私自身、後援部の活動をさせて頂く中で、小学校生活や塾の話、地域との関わり方、家庭の事など、剣道以外の事も相談出来る方々に出会い「駒剣はファミリー」を、身をもって感じております。駒剣で学んだ感謝する気持ちや礼節の大切さを忘れずに、これからの毎日を過ごしていきたいと思います。親子共々、お世話になり本当に有難うございました。最後になりましたが、駒場剣友会の益々のご発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

俵くん(母)



息子は2年生から駒剣に入会しました。小さい頃からとにかくマイペースな子で正直性格的に剣道は向いてないかなと思いましたが、兄が駒剣に入っていたので剣道教室をすすめたところ、やってみようかなという感じでスタートしました。いざ始めたところやる気に波があり、、と言うかやる気がある日の方が少なく、連れて行くのも一苦勞でした。兄がさっさと準備している横でのんびり準備し、着いてからも下を向いてゆっくり歩き、防具をつけるのも遅く、皆が打ち込みを始めているのに中々道場に入らず、、見てみるとイライラしてしまい何でもっと早くできないの?と怒ってしまう事が多々ありました。長く続けていけばきっと変わってくるのかなと期待しつつ見守ってきましたが、やる気の波は変わらず時が流れていきました。気持ち的にももう続けられないかなと思うときもあったのですが、それでも休まずに行かせようと思ったのは最後までやり遂げる事が涼太の自信につながると思ったからです。そんな中で、息子が5年生の時に年間皆勤賞をもらいました。それがきっかけになったかは分かりませんが、段々と準備も早くなり、防具をつけるのも早くなり、やる気がある日が増えてきました。6年生になる頃には面つけのスピードも上がり先生方に真っ先に並べるようになりました。最初の頃は稽古中に何度も面紐や胴紐が外れているのを見ましたが、そんな姿も全く見られなくなりました。大きい声を出して力強く素振りをする姿に成長を感じてとても嬉しい気持ちになりました。以前は兄や周りの子達と息子を比べてしまうこともありましたが、息子なりに頑張っただけ成長した部分をきちんと見てあげようと思うようになりました。入会当初から振り返ると涼太が精神的に成長したな～と感じる事が多くなり続けてきて本当に良かったと思っています。ここまで涼太が成長する事ができたのも、やる気の波を受け止めて下さり、愛情深くご指導して下さった先生方や、どんな時もあたたかく見守り声かけしてくれた保護者の方達、そしていつも一緒に稽古をしてくれた駒剣士の皆さんのおかげです。駒剣でたくさんの貴重な経験ができ成長できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。本当に今までありがとうございました。

廣江さん(父)



赤裸々に申しますと、「習い事をするなら、自分と一緒に楽しめるものを」という私の考えで娘は駒剣に入会した経緯があります。それゆえに、嫌がらずに通っているか、ちゃんと続けていけるかという点については、常に気にしながら見守っていました。人見知りや恥づかしがり屋な娘ですが、3年間頑張ることができたのは、ひとえに師範の先生方の愛情ある御指導と、錬成部、後援部の皆さまの温かい御支援のお陰と心から感謝しております。「なんて声が小さいんだ」「ちゃんと自分から挨拶しなさい」始めはイライラすることばかりでしたが、いつもいい姿勢でしっかり先生方の目を見て話を聞いていること、着装に気を配っていること、教えてもらったことは忠実にできるまでやろうとすることなど、しだいに彼女のいいところに気付くようになりました。特に6年生になってからの成長は著しく、「女性剣士」としての凛とした雰囲気も漂い始め、試合のコツも掴みつつあるような気がしていました。まさにこれからという時に、2度目の活動休止になったことは、とても悔やまれます。早いものでもうすぐ駒剣を卒業となってしまいますが、駒剣で培ったことを礎にして、末長く剣道を楽しんでくれることを願うばかりです。最後に、木曜日はなかなか送っていくことができず、私の母に送迎をしてもらっていましたが、コロナ禍でそれもままならず、電車と徒歩で体育館に向かう姉弟を岩田さんが車に乗せてくださり、帰りは俵さんに家まで送ってもらったことは、感謝に堪えません。本当にありがとうございました。

百木さん(母)



いつか剣道をやってくれたら嬉しいなと思いつつ、自主性に任せていたところ、「剣道やってみようかな」と息子が駒剣に入会したのは4年生になった時でした。

稽古に関しては口を出さないようにしよう、剣道に接することで心が強くなればそれで良いのではないかと、温かく見守る方針で考えていました。しかし、慎重派だとは思っていましたが、そのせいでやる気がいまいち感じられず、周りの皆がめきめき上達し、同学年の子が次々に勝ちをとっていく姿を見ると、口に出してはいけないと思いつつも、もどかしく感じるが多々ありました。なかなか自分の思い通りにいかず、稽古に行きたくないといごねる時期もありました。今思えば、あまり表には出しませんが、慎重なりに上達できないことを何とかしようと試行錯誤していたのかもしれない。

家族会議の末、家族で一緒に稽古をしたら楽しくなるのではと、私も剣道を再開しました。結果、私は怪我をし、慎重の剣道嫌いは治りませんでした。それでも一緒に剣道ができたこと、嫌だ嫌だと言いつつもなんだかんだ苦しい事に立ち向かっていく姿が見られた事は幸せだったなと思います。これは師範の先生方や錬成部・後援部の方の、我が子のように子供たちの成長を見守り接するという、温かいご指導のお陰だと思います。好きではない事に挑み続けるということは、本当に辛く苦しいことだと思います。そんな時に良い芽を見つけ、良いと褒めてくださるご指導に、親子共々何度救われたかわかりません。駒剣での経験が、剣道としてでも、生きていく上でも、慎重の何らかの力になってくれたらいいなと思います。

末筆ではございますが、コロナウイルスなど様々な試練の中にあっても、師範の先生方、錬成部・後援部の皆様の温かいご指導ご支援のもと、3年間続けられました事、改めて感謝いたします。本当にありがとうございました。

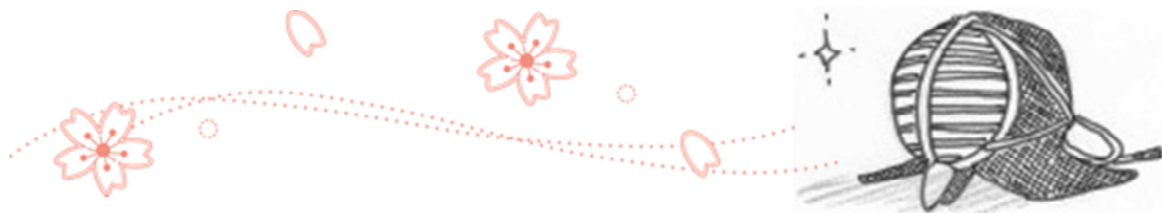
森岡さん(母)



剣道はいまだスポーツ化しておらず、昔の武”道“が残っていると聞きつけ、4年生の体験会に参加させました。武道の中で礼儀・集中・辛抱などを学んでほしいとの思いでした。息子は新しい体験や上達することをとても喜んでおり、そのまま入会いたしました。

始めのころはとても楽しそうに参加いろいろな話を家でもしました。特に印象的だったのは「師範の先生の話がとても興味深くて面白い」と話していたことです。その季節にちなんだお話、記念日のお話など、息子が嬉しそうに話す内容が、家庭での話題のきっかけになっておりました。他の習い事とはそこが違う点でもあり、親としてもとてもありがたく感じておりました。

後半は様々なことがうまくいかず、剣道もなかなか思うように参加できなかったのですが、周りの皆様のご好意で自身のペースで卒業させて頂くこととなりました。親としても悩み、反省や学びの多い期間でありましたが、師範の先生方やほかのご父兄の皆様の大人柄に何度もお助けいただきました。心より感謝申し上げます。



石井のetc日記



猫は自己つ、こみの擬人化とお思い下さい...